

スマイル ハート

[Smile Heart] No. 25

情熱あふれる
産地づくりを目指して

April 2016

4

特集

卒業式を彩る！
フラワーアレンジ教室



高品質なイチゴ作りに
夫婦で取り組む！

紀州 農語り

今回ご紹介の作物
【イチゴ】

日高川町船津

たつ た まさと
龍田 雅人さん(57才)

イチゴ 13 a、イチゴ苗 7 a、
水稲 160 a、その他野菜などを、
奥さんと栽培しています。





県オリジナル品種 『まりひめ』を栽培！

雅人さんの栽培するイチゴは、県オリジナル品種『まりひめ』を中心に、『さちのか』も栽培しています。『まりひめ』は、『章姫』と『さちのか』の交配種。実が大きくて、色づきが良く、まろやかで食べやすい人気の品種です。

32年前からイチゴ苗を栽培していましたが、13年ほど前、知人を介して7a分のハウスを借りたことをきっかけに、イチゴの実の栽培を開始しました。イチゴは、Aコープかわべ産直コーナーや、中津の産品所にも出品しています。

栽培管理について

イチゴ作りは、親株(苗)を育てるところからスタートします。1月に定植し、毎日適度に灌水します。イチゴは病害虫に弱いので、3月頃から、1週間に一度は防除を行います。9月末頃になると、育った苗を本圃に定植します。花が咲くとミツバチを入れて受粉を助け、大きい実を作るために摘花(果作業を行う等、収穫のときまで一時も気を抜くことができません。また、実が付き始めると減農薬栽培に心掛けています。花が咲いて収穫までにかかる期間は、冬場で約40〜50日、春は30日後。「ゆっくり熟して、おいしくなる」と雅人さんは話します。

今年は暖冬の影響で生育スピードが速くなり、例年より10日ほど早く、12月中旬から収穫が始まりました。例年よりも小ぶりの実が多かったと振り返ります。収穫は、5月の連休頃まで続きます。

数ある作業の中でも、時間がかかり慎重に行うのは、イチゴのパック詰めとのこと。イチゴはデリケートなため、特に丁寧に行います。

また今年は、実の痛みを防ぐこと等を目的に、圃場の黒マルチの上に白い緩衝材を敷きました。「試験的に一部に敷いてみたが、良い結果が出れば次年度以降も取り入れたい」と、高品質なイチゴ栽培のために取り組んでいます。

夫婦仲良く、高品質なイチゴを作り続ける！

雅人さんは、丹精込めて育て、真っ赤に実ったイチゴを収穫するとき、一番やりがいを感じると話します。産直コーナー等に出品すると、午前中で売り切れてしまう人気ぶり。待ってくださるお客様がいることが嬉しいと微笑みます。産直コーナーでは、一緒に栽培に取り組む奥さんの悦子さんが作ったイチゴジャムも販売しています。

最後に、「温度差や日照時間など、天候で生育状況は変わるが、『まりひめ』は実が大きく育ち、味も良い。これからも夫婦仲良く、作り続けたい」と話してくれました。

スマイル Contents 2016. April

紀州農語り.....	2
特集.....	4
卒業式を彩る！ フラワーアレンジ教室.....	4
トビックス.....	6
あぐりガイド.....	10
J A 紀州の新組織機構図.....	16
人事異動のお知らせ.....	18
インフォメーション.....	22
読者の広場.....	26
ふれあいコーナー・ 表紙紹介.....	27
J A 紀州クッキング.....	28



卒業式を彩る!

フラワーアレンジ教室

3月、旅立ちの季節。

新しい環境へ飛び立つ子ども達へのお祝いの気持ち、

自分達の暮らすまちが花の産地であることを誇りに思っしてほしいとの願いを込めて…



早蘇中学校 2年生 14人

花言葉

スターチス…「変わらぬ心」

カスミソウ…「清らかな心」

ガーベラ……………「希望」

カーネーション…「情熱」

スイートピー…「門出」

など



塩屋小学校 6人

JA紀州女性会が取り組む、小中学生を対象としたフラワーアレンジ教室。この取り組みは15年ほど前から始まりました。アレンジメントはJA紀州管内で生産する花を使用し、卒業式の式場に飾ります。卒業生が作って家族に贈ったり、在校生が作って卒業生に贈ったりと、各校で様々です。女性会かわべブロックの玉置絹子さんが講師となり、各地区の女性会員も子ども達をサポートしました。

教室の前には、JA職員がアレンジメントに使用する花について説明しました。全国一の生産量を誇るスターチスをはじめ、管内で生産しているカスミソウ、ガーベラ、カーネーション、スイートピー。それぞれの花の特徴や花言葉などを紹介し、「女性会の皆さんが丁寧に教えてくれますので、ゆつくりと花とのふれあいを楽しんで下さい」と呼びかけました。



川原河小学校 14人

みんな、きれいに出来ました！

大成中学校 3 年生 79 人



笠松小学校 16 人

ドーム型で華やかな
アレンジメント♪



たくさんの女性会員
が子ども達をお手伝
いします！



丹生中学校 2 年生 16 人



中津小学校 5,6 年生 39 人



和歌山放送ラジオ、
テレビ和歌山の
取材が入りました。

青年部みなべいなみ支
部では、清川小学校 4
6 年生 28 人を対象に、フ
ラワーアレンジ教室を開
きました。印南町の野村
典子さんを講師に招き、
スターチス、スイートピ
ーなどを使ったアレンジ
メント作りに挑戦しまし
た。青年部員 4 人が、お
手伝いをしました。



清川小学校 28 人

寒川小学校 16 人



梅食育本『梅パワーのひみつ』発刊!



▲『梅パワーのひみつ』をPRする各代表ら

全国の小学校、
図書館へ寄贈!
漫画で梅の機能性、
歴史を紹介

3月22日、JA 紀州、JA 紀南、みなべ町、田辺市で構成する梅食育普及促進協議会は、梅食育本『梅パワーのひみつ』の発刊を発表しました。3月28日には、みなべ町、田辺市の代表小中学校で、本の贈呈式を行いました。

同協議会は、梅産業の発達・活性化のため、JA、行政が連携し、昨年4月に発足。『梅パワーのひみつ』の配布とともに、全国の小学校に食育出前授業の案内を送付しました。応募を取りまとめ、産地から講師を派遣し、梅についての授業を行う予定です。梅ジュース、梅ごはん作りなど、体験を交えて梅への理解を深めてもらいたいと考えています。また、学校給食に梅干しを取り入れてもらうため、梅干しの提供も行う予定です。



▲『梅パワーのひみつ』



▲贈呈式(南部小学校)

同協議会の会長を務める当JAの久保秀夫組合長は「核家族化が進み日本の食文化の継承が危ぶまれている。子どもたちがこの本を読んで梅の歴史や機能性を理解し、大人になっても梅を食べて欲しい。本の製作を通じて、産地の私たちも、梅は昔から日本人に愛され続けているのだと再認識することができた」と述べました。



✓ エコキャップ運動 「世界の子ども達にワクチンを」

2月24・26日、JA 紀州マスコットキャラクターの『きいぼん』が、管内の幼稚園、保育園6園を訪問し、園児らが1年間かけて集めてくれたペットボトルのキャップを回収しました。

当JAでは、NPO 法人エコキャップ推進協会のペットボトルキャップ回収運動に賛同、協力しています。回収したキャップはリサイクル工場に買い取られ、世界中の子ども達のワクチンを購入する費用等に充てられています。JA職員がそれらについて説明し、「これからも、世界の子供たちを救うために、キャップを集めてくださいね」と呼びかけました。最後に、園児らはきいぼんと記念撮影を楽しみました。



▲きいぼんにキャップを渡してくれました



▲JA職員から説明



▲園児らと記念撮影

✓ 農業女性を支援！ 野菜栽培講習、農機体験『女性教室』を開催

3月4日、女性を対象とした野菜栽培講習と農機の操作体験ができる『女性教室』を和歌山県農業大学校就職支援センターで開きました。（日高振興局、井関農機㈱、㈱丸山製作所共催）

農業や家庭菜園をしている女性を支援し、地域農業を活発にすることが目的です。今年で2回目の教室には、JA女性会員を含む管内の女性48人が参加しました。

野菜作りの基礎となる土作りについて講習会を行った後、体験圃場で班に分かれて、順番にトラクター、管理機、耕運機の操作に挑戦しました。

お楽しみ抽選会では、井関農機㈱提供のオリジナルダウンベスト等がプレゼントされました。



▲JA営農指導員が土作りについて講習



▲井関農機(株)の職員サポートでトラクターを操作体験



▲ひとりずつ、管理機や耕運機操作にチャレンジ

✓ 女性会 福島県仮設住宅を訪問！ 和歌山から元気を届けました

3月24日、女性会（平井正子会長、田中正子副会長、赤坂幸子副会長）とJA職員2人が福島県郡山市の仮設住宅集会場「おだがいさまセンター」を訪問しました。東日本大震災の被害を受け、仮設住宅で暮らす方々に元気を届けようと始まった被災地支援は、今年で3回目です。

今回は、JA紀州のミニトマト『優糖星』900パックを、3つの自治会（南1丁目、富田、緑ヶ丘地区）に提供し、「こんなに美味しいミニトマト初めて食べました」との声をいただきました。また、印南町出身歌手のにしゆきさんにご協力いただき、ミニコンサートを開催。仮設住宅に暮らす方々と一緒に歌い、交流しました。



▲田中副会長（写真左）と赤坂副会長（同中央）からミニトマト『優糖星』を贈呈



▲仮設住宅で暮らす方々と談笑する平井会長ら（写真左端）



▲にしゆきさん（写真左）のミニコンサート

✓ 輝く女性に！ 女性大学『ヴィーナス』第1期生卒業！

3月28日、女性大学『ヴィーナス』は、最後の講座“ステキな女性にイメージチェンジ！メイクヘアアレンジ”と、閉講式を行いました。

ヘアメイク・グルーヴの芝田晃さんを講師に招き、メイクやヘアアレンジの方法を学びました。巻き髪のコツやポイントメイクの方法など、質疑応答を交えながら、熱心に耳を傾けていました。

閉講式では、受講生に卒業証書と記念品を手渡しました。



▲講師のお手本を見る受講生ら



▲卒業証書を授与



▲閉講式の様子

✓ 日高支店で 防犯訓練を実施

2月23日、日高支店で、強盗が店舗に押し入ったことを想定した防犯訓練を実施しました。(御坊警察署・県金融機関防犯対策協議会協力)

強盗が押し入った際には、お客様の安全の確保や緊急通報の方法、犯人の特徴を覚えたり、逃亡する犯人を追跡するなど、各職員それぞれの役割を再確認しました。



✓ 直売所利用会 栽培講習会

3月4日、直売所利用会はアグリセンターみなべで、夏野菜の栽培講習会を開きました。タキイ種苗株式会社の飯橋氏を講師に招き、ナスやキュウリなどの栽培方法を詳しく学びました。



✓ 不祥事再発防止策等を確認 全職員研修行う

3月14・15・17日、全職員を対象とした研修を行いました。不祥事再発防止策、重複指摘事項解消運動、中期3ヵ年計画について、確認しました。



✓ 女性会 県内一斉クリーンウォーク

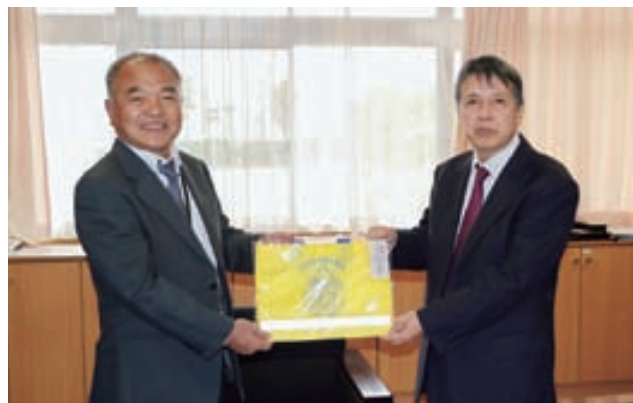
3月5日、県内一斉クリーンウォークが実施され、JA紀州管内でも、女性会員、JA職員など総勢約650人が参加し、JA各支店の周辺道路、線路沿い、浜辺、かわべ天文公園などを掃除しました。

また女性会員が炊き出しを行い、参加者の皆さんに豚汁や梅干し入りのおにぎりを振る舞いました。



✓ 共済部 反射材つきレッスンバッグ寄贈

3月18日、JA共済の交通事故対策活動の一環として、管内37小学校の平成28年度新入学児童637人に、反射材付きレッスンバッグを寄贈しました。JA共済は、児童を交通事故から守り、安心して暮らせる地域社会への貢献を目指しています。久保秀夫組合長は「暗いところでも目立つバッグなので、交通事故等に合わないよう、活用して下さい」と話し、山本仁史南部小学校長は「交通事故等が多いので、バッグを渡すことで子ども達に交通安全について意識してもらえる」と感謝の言葉を述べました。





梅園管理について

4月は防除期です。

農薬の使用基準は厳守し、農薬散布後は防除歴の入力を必ず実施して下さい。

幼果期（4月中旬）

・かいよう病

マイコシールド

1,500倍

（21日前／4回）

・黒星病

ペンコゼブフロアブル

1,000倍

（21日前／3回）

又は

水和硫黄剤

500倍

－／－（薬斑注意）

肥大期（4月下旬～5月上旬）

（小梅等、収穫前日数注意）

・かいよう病

マイコシールド

1,500倍

（21日前／4回）

・黒星病・すす斑病

スコア顆粒水和剤

3,000倍

（前日／3回）

又は

オーソサイド水和剤

800倍

（21日前／3回）（薬斑注意）

＊オーソサイド水和剤は白い薬斑が残るため、青梅出荷園では、スカッシュ 2,000倍を加用しましょう。

＊黒点症・油あげ症が多い園は、アビオンE 1,000倍を加用しましょう。（薬斑注意）

ウメシロカイガラムシの防除について

4月中下旬頃

アプロードフロアブル

1,000倍

（7日前／2回）

5月上旬頃

スプラサイド乳剤

1,500倍

（14日前／2回）

（オレンジの幼虫が出てきたときに散布する）薬害注意

かいよう病について

マイシン剤の効力は7日間程度と短いため、降雨前の散布を心掛けて下さい。また、かいよう病の防除で最も効果の高いのは、防風ネットや防風垣の設置です。

ハダニ多発園

ニッソラン水和剤 3,000倍（収穫7日前）を手散布で葉裏にかかるように散布して下さい。

ハダニは抵抗性がつきやすいため、多発園以外ではできるだけ散布しないで下さい。

ホウ素供給

4月上旬～5月上旬まで、として葉面散布剤（プラムエース・ヨーヒB5）800倍を数回散布しましょう。

スカシバコン設置40本～100本

／10a（4月下旬～5月上旬）

近年設置数が減少し、少しずつコスカシバの被害が出てきました。これ以上被害を拡大させない

ためにも、必ずスカシバコンを設置して下さい。（地域全体で取り組むことが、最も効果的です）

県うめ研究所・JAでは、平成21年より試験を実施し、防除効果も確認しています。

10aあたり50本を厳守し、地域全体でコスカシバから梅産地を守りましょう。

薬害について

梅は単用散布でも品種・散布時の気温・天候・果実の熟度等により薬害が発生する場合があります。

実肥の施用（時期…4月上旬）

（10aあたり2t園）

推奨型

・南高タブレット（8～5～7）

10aあたり6袋

・フルパワー（7～6～4）

10aあたり6袋

省力型

・ぴかいち配合（12～6～8）

10aあたり7袋（実肥＋礼肥）

・梅一発（14～12～14）

10aあたり18袋（年間1回型）

＊施肥量は、結実量・樹勢を見て調整して下さい。



牡羊座

3/21～4/19

【全体運】プライベートの充実に力を注ぐと、手応えを感じられる月。趣味や習い事など、好きなことを満喫してみよう

【健康運】スポーツに最適。スムーズに上達しよう 【幸運を呼ぶ食べ物】 ジャガイモ

柑橘類



苗木の管理

定植後の苗木が発芽し、新梢が伸び始めたら、主枝になる枝を2〜3本決めて支柱で固定します。また、先端は外芽の強い位置で切り返して下さい。土壌が乾燥してきたら灌水して下さい。

同時に、新芽につく害虫の防除に努めて下さい。

開花期及び病害虫防除

いよいよ発芽及び開花期を迎え、本格的な防除時期となりました。

今年も温州みかんの結果母枝数は、園地や樹によってばらつきがあり、葉が黄色くなって樹勢が低下している園が多く見られますので、防除の際はチッソ主体の葉面散布剤を混用して下さい。

また、昨年は長雨や高温干ばつの影響で、黒点病とチャノキイロアザミウマの被害が多く発生しましたので、適期防除に努めて下さい。

防除薬剤

	防除時期	対象病害虫	薬剤	倍数	使用基準	備考
温州みかん	4月中旬 (発芽1〜2cm)	そうか病	デランフロアブル	1,000 倍	30 日前／3 回以内	—
	5 月上中旬 (開花期)	灰色カビ病	ファンタジスタ顆粒水溶剤 +	3,000 倍	14 日前／5 回以内	灰色カビ病の防除にゲッター水和剤 1,500 倍（開花期／5 回以内）でも良い
		黒点病	ジマンダイセン水和剤 +	600 倍	30 日前／4 回以内	
		訪花害虫	モスピラン顆粒水溶剤 又は アクタラ顆粒水溶剤	3,000 倍 2,000 倍	14 日前／3 回以内 14 日前／3 回以内	
中晩柑類	防除時期	対象病害虫	薬剤	倍数	使用基準	備考
	5 月上中旬 (開花期)	黒点病	ジマンダイセン水和剤 +	600 倍	90 日前／4 回以内	清見については灰色カビ病の防除にファンタジスタ顆粒水溶剤 3,000 倍（14 日／3 回以内）を散布する
		訪花害虫	モスピラン顆粒水溶剤 又は アクタラ顆粒水溶剤	3,000 倍 2,000 倍	14 日前／3 回以内 14 日前／3 回以内	
			IC ボルドー 66D 加用アビオン E +	60 倍 1,000 倍	—／—	
	5 月下旬 (自己摘心後)	かいよう病	モスピラン顆粒水溶剤	3,000 倍	14 日前／3 回以内	—

水稲



土づくり作業

土壌改良資材施用し、土づくりを行いましょう。特に秋落ち田や収穫後、稲稈を持ち出された方は、必ず実施して下さい。

施用例

- ・アグリハーモニー（15 kg／1 袋） 4 袋／10 a
- ・だるまくん（20 kg／1 袋） 5 袋／10 a
- ・米太郎（20 kg／1 袋） 7 袋／10 a
- ・ケイカル（20 kg／1 袋） 7 袋／10 a

元肥

一発肥料施用（例）

- ・エムコート 7-7-7（17-17-17）（20 kg／1 袋）
- 2 袋／10 a（キヌヒカリ・イクヒカリ）
- ・ハイエムコート 200（22-10-10）（15 kg／1 袋）
- 2 袋／10 a（キヌヒカリ・イクヒカリ）

追肥型・元肥

- ・米一番（12-14-12）（20 kg／1 袋）
- 2 袋／10 a

（キヌヒカリ・イクヒカリ・日本晴）

種子消毒

- ・馬鹿苗病 — テクリード C フロアブル 200 倍
- ・もみ枯細菌病（浸種前／1 回）

※馬鹿苗病にはトリフミン乳剤 300 倍（1 回）でもよい。



牡牛座

4/20~5/20

【全体運】積極性アップ。やってみることがあれば、どんどんチャレンジを。ハイキングなど、アウトドアレジャーも吉
【健康運】新陳代謝の活性化で、より元気モードに 【幸運を呼ぶ食べ物】 コゴミ



- ・シンガレセンチュウ
- ・スミチオン乳剤 1,000倍

(播種前／1回)

* 24時間浸漬しましょう。

* 種もみ消毒後は水洗いしないで下さい。

育苗時

- ・苗立枯病

タチガレン液剤 500～1,000倍

0.5ℓ／箱

(播種時及び発芽後／2回以内)

又は

ダコニール1000 1,000～2,000倍

1ℓ／箱

(播種時／緑化期但し播種14日後まで／2回以内)

苗箱処理

- ・いもち病、ウンカ病、コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ

ビルダーフェルテラチエス粒剤

50g／箱

(移植3日前／移植当日)

又は

ツインターボフェルテラ粒剤

50g／箱

(播種時／移植当日／1回)

※定植の残り苗は、いもち病多発の原因となりますので早急に処分して下さい。

野菜



●ミニトマト

(キャロルフ、アイコ)

栽培管理

気温の上昇とともに、生育や着色スピードが速くなり、作業遅れや過熟果、軟果の発生が心配されるため、適期収穫に努めて下さい。また、誘引や摘葉、収穫の遅れは果実内容の低下だけではなく、草勢の低下や病害虫の発生の原因となりますので注意して下さい。

さらに草勢をよく観察し、最後まで肥料切れをさせないよう施肥を行って下さい。ただし、草勢が強い場合は、施肥量や施肥方法、時期を調整して下さい。

高温による果実内容の低下や草勢の低下を防ぐために、遮光ネット(遮熱ネット)の被覆も行なって下さい。

病害虫

- ・黄化葉巻病

コナジラミの発生している場合、直ちに薬剤を散布するとともに、発病株は取り除き、適正に処理して下さい。また、秋に黄化葉巻病やコナジラミが発生している圃場では、再発が心配されますので特に注意が必要です。

- ・葉かび病・うどんこ病

昨年度と比べると発生は少なくなっていますが、今後、気温の上昇により増加する可能性があります。適度な換気やこまめな摘葉、予防的な薬剤散布を行って下さい。

交配作業

6月末で収穫作業を終了する場合、目安として5月中旬頃で交配を終了して下さい。

交配後のマルハナバチ処理について

交配に飼養したマルハナバチは、外来生物法で特定外来生物に指定されており、飼養や取り扱いには登録が必要であるとともに、厳しい制限があります。交配作業

が終了した後は、マルハナバチが完全に死亡するまでハウス内で巣箱ごとビニール袋に入れるなど、確実に殺処分を行って下さい。

●ピーマン、ナス

4月に入り気温が上昇するにつれ、葉から水分の蒸散が多くなり、果実の肥大が早まる時期になりますので灌水、温度管理等に注意して下さい。

ピーマンについては、尻腐れが発生しやすくなりますので、特に注意して下さい。

灌水

1回の時間を少し長くするとともに、回数を増やして下さい。

排水の良い圃場では、ハウス内の湿度の保持をかねて、畝間灌水を行って下さい。特にナスについては、水分が必要で根が強いので畝間灌水を行って下さい。

ピーマンは灌水不足や液肥のやり過ぎは尻腐れの原因となりますので気をつけて下さい。また、予防としては、カルシウム液肥(10a当たり2ℓ／1回、月2～3回)施用して下さい。また、カルシウムの葉面散布剤をすることも良い

でしょう。あまり多くし過ぎると樹をしめます。

温度管理

内張りについては、3重目をまだ外していない方は外して、2重目については5月の連休を目安に外して下さい。

換気については、午前中は少し高めで30℃までに、午後からは25℃までに管理して下さい。

天敵

サイド、谷等の換気をし始めると、ハウス外からの害虫の飛び込みが多くなりますので、天敵と害虫とのバランスを注意深く見ながら、防除に努めて下さい。

●露地ナス

定植

定植時期が近づいてきましたので、地温確保のためにマルチ被覆を早めに行ってください。また、マルチの被覆を行う際は土壌が湿った状態で行ってください。

定植時に植穴処理として、アブラムシ、ミナミキイロアザミウマ、コナジラミ予防でベストガード粒剤2g/株、ハモグリバエ類、ハスモンヨトウの予防でプレバソン

フロアブル5を100倍、25ml/株(鉢)で灌注して下さい。

●シシトウ

トンネル内の温度に十分注意を払い、日焼け症状等を発生させないようトンネルの開閉に努め、適度な灌水も行ってください。

初期の実は変形・短果実が多いので、初期から不良実と確認できるようにであれば取り除いて下さい。

トンネルなしの栽培では定植時期です。天候の良い日を確認し、浅植え定植に努めて下さい。定植後は、十分な灌水を行ってください。

●キュウリ

夕方ハウスの温度が、18℃以上あつてハウスを閉めて室内の温度が下がらない時には、かっぱん病が発生しやすい状態になるので、18℃以下の温度を目安にハウスを閉めて下さい。

また、菌核病、灰色カビ病発生予防に、ヌカをハウス内の谷下や収穫作業で通らない所に置いて下さい。

灌水については、天候または収穫量に応じて行って下さい。

●小玉スイカ

2月定植では、5月中旬より収穫出荷作業が始まります。

収穫期まで、草勢の維持に努め、高品質果実の生産を目指しましょう。

3月定植トンネルでは、一斉着果を目指し、交配期の温度管理や草勢管理など一つ一つの栽培管理をきっちりと行いましょう。

着果から初期肥大期までの管理については、広報誌スマイルハート3月号をご覧ください。

収穫期の管理

・草勢維持と日焼け果対策

日中、ハウスやトンネル内は高温となります。しっかりと換気を取り、草勢維持と果実内容の向上に努めて下さい。

草勢が弱りや果皮の日焼けが心配される場合は、収穫前でも、少量の灌水を行い草勢維持に努めるとともに、遮光ネットの利用や果実へワラ等を被せるなど、日焼け防止対策を施して下さい。

・葉巻たんそ(やせいら)対策

毎年、葉巻たんそが発生する圃場では、予防対策としてリンクエ

ース800〜1000倍を1週間間隔で2〜3回程度葉面散布して下さい。

病害虫防除

・重要病害虫

毎年、多くの圃場でアブラムシやアザミウマ、ヨトウムシの発生が見られます。また、昨年度、多くの圃場でたんそ病の発生が確認されました。予防的な薬剤散布を心掛けて下さい。

土ぶせ栽培

最低気温で14℃以上ないと一斉着果できないため、トンネルの除去は、外気の最低気温が12・5℃以上になってからにして下さい。(例年は5月20日頃)

トンネルの除去後は、黄体や変形果の原因となりますので、目で見える雌花は除去して下さい。また、ツルの整理後2日以内にたんそ病予防のため薬剤散布を行ってください。

＜スイカ栽培者のみなさまへ＞

試し切りの実施

JAで試し切りを実施させて頂きます。試し切り実施にご理解、ご協力お願いします。



座 6/22~7/22

【全体運】 知的好奇心を刺激されやすく、いろいろなことに興味を抱きそう。共通の趣味を持つ仲間たちとの交流もグッド
【健康運】 睡眠不足解消など、基本健康法の徹底を 【幸運を呼ぶ食べ物】 ノビル

着果棒の入力について

旧みなべいなみの生産者はOCR用紙又はパソコンでの入力となります。OCR用紙が手元にならない方は、各支店・出張所又は営農販売センターの端末より出力して下さい。

旧紀州中央の生産者は今まで通りの方法でJAまで連絡して下さい。

また着果棒報告後、天候や病害虫により数量の変更があった場合は、速やかに営農販売センターまでご報告下さい。



●えんどう類

○うすい

気温が高くなり、収穫が遅れないよう適期収穫に努め、圃場が乾燥している場合は、こまめに灌水を実施し、草勢維持に努めて下さい。

○きぬさや

収穫を終了した圃場は速やかに残渣処理を実施して下さい。また、栽培圃地周辺の除草作業も徹底して下さい。

○インゲン

ハウス栽培では収穫時期を迎えますが、主力品種のキセラは、肥料と水を切らさないよう、こまめに管理を行って下さい。

発芽を確認後、キセラでは1本仕立て栽培に努めて下さい。キセラは樹勢がよいいため、株間等が狭い場合は混みすぎになり、葉かき等の作業が困難になります。また、内部のサヤに光が当たらず、不良サヤが多く発生する恐れもあるので、1本仕立て栽培がおすすめです。



花き類



●寒小菊

挿し穂は高い節位で取ると分枝していきまので、低い位置で採れるように親株の刈り込みを行って下さい。また、発生してきた芽に病害虫が付かないように注意して下さい。

●7～8月咲き小菊

定植も終わり、ピンチの時期になってきます。ピンチは基本的に活着後（定植後10～15日位）に行います。ピンチの時期は開花時期にも影響しますので、遅くならないように行って下さい。（できるだけ揃った芽を残すように行って下さい）

また、病害虫の発生に注意して初期防除に努めて下さい。

●スターチス

光線が強くなり気温も上昇してくるため、草勢の低下や色の退色（色ボケ）が出やすくなりますので、

ネットや遮光資材を用いて遮光を行うとともに、ハウス内の換気に努めて下さい。

また、採花を続けて行う圃場については、施肥・灌水管理、病害虫の防除を徹底して下さい。

出荷調整作業についても、ムレ等に注意して行って下さい。

●カスミ草

開花スピードが早いいため、採花遅れの無いように適期収穫に努めて下さい。

また、スリップス、ダニ類等の病害虫が発生しやすくなるため、注意して下さい。

●花き類全般

気温の上昇に伴い、灌水量を増やし、換気を十分に行って下さい。特に花卉のしみに注意し、コナジラミ・ダニ類・アザミウマ・アブラムシ等の予防散布に努めて下さい。

収穫後の倉庫内作業についても、ムレ等が発生しやすい状況ですので、注意して下さい。



獅子座

7/23～
8/22

【全体運】 思うようにならない出来事が増えるかも。いらいらせず、ゆったり構えること。陶芸や盆栽に挑戦すると開運に
【健康運】 アクティブに過ごせば、体調が上向く月 【幸運を呼ぶ食べ物】 しらす